



～法人内SNS紹介vol.3～

シリーズ企画として紹介していきますので見てみて下さい！是非フォロワーにも♪



【横浜らいず】



【きっかけ】

1人でも多くの方（特に若い世代！）に『横浜らいず』を知ってもらおう！という思いから、入所ご利用者の自治会活動グループである「暮らしを楽しむ会」メンバーの発案でスタートしました。

【ポイント】

生活の様子や活動の様子、日々のちょっとした発見、敷地内の四季の移り変わりなど、横浜らいずの日常や「暮らしを楽しむ会」の活動紹介などを発信しています。最近、初代理事長（銅像）のコスチュームの変化も話題です。また、インスタを通じて横浜らいずを発見してくださったNPO法人とは4年にわたるお付き合いがあり、今年もイベントに協力させていただくことになりました！

【&COCO】



【きっかけ】

開所までの道のりを通して楽しみになっている利用者、ご家族にも共有したいという想いで、事業所の工事進捗情報から掲載を始めました。

【ポイント】

事業所のコンセプトである【出会い】と【繋がり】を作るために事業所の取り組みやメンバーさんの魅力をメインに発信しています。活動内で、メンバーさんと更新作業をしたり、他の事業所の取り組みを見てコメントを送ったりしています。ホームページもメンバーさんと更新していますので是非ご覧ください。

<https://andcoco.amebaownd.com/>

人物探訪録



第004号

～横浜共生会で活躍している職員を訪ねて～

柿島佑二さん

樽町ケアプラザ所属



●入職したきっかけは？

フリーターで自由気ままにしていたころ、何か別のバイトしたいと思っていた時、テレビで『高齢化社会』というフレーズを見て『そうだ介護の仕事しよう』とヘルパー2級の講習に行ったのが始まりです。資格をもらった頃に、運良く近所の下田地域ケアプラザでデイの介助員の募集があり『渡りに船だ』と思ってパートで採用してもらい、何年か働いた後、タイミング良く常勤職員登用のお話も頂き、樽町地域ケアプラザで生活相談員として働かせて頂いております。

●介護職員として働いてみてどうでしたか？

仕事なので大変な部分も多いですが、高齢者とのコミュニケーションは楽しいです。年齢が大きく離れていることが何より良い所。生きてきた時代の違い、身についた習慣、考え方など、とても新鮮でした。同じ価値観の人との交流では得られない、会話の楽しさがあります。

●高齢者向けデイサービスとはどういうところ？

ご利用の方に、外出の機会、人との交流、入浴、ご家族の介護負担軽減などを主な目的としてサービスを提供しています。加齢や病気によって身体状況や認知症状の低下していく方が多いなかで、その低下の具合を緩やかにする一助として、デイサービスを使って頂いております。

●介護職員の経験の中で、思い出に残っていることはありますか？

ご利用の方が入院の為デイを中止し、その後亡くなられたと話を初めて聞いた時です。とてもショックでした。それまではサービスを提供する対象の方が亡くなる、という感覚がわからなかったんだと思います。高齢者向けのデイサービスは『そういった出来事が起きるまでの時間を過ごして頂く場所なんだ』と感じた瞬間でした。そんな思い出があるからなのか、過ごして頂く時間をほんの少しだけでも楽しくできたら、と思いながら働いています。

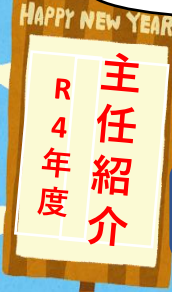
●最後に一言

とても気軽な気持ちで入った介護の世界ですが、いつのまにかパート時代を含めて10年以上携わることになりました。飽きっぽい自分がこんなに長く続くと、と振り返ってみて驚くとともに、改めて自分はこの仕事が気に入っているんだと思いました。高齢者向けデイサービスは働き甲斐のある良いところですよ。今後も長くこの仕事に携わっていければと思っています。それと、良い上司に出会ったことも感謝です。

採用説明会情報

8月～12月にかけては来訪者が少なくなる傾向にあります。コロナ第8波の影響も少しあるようです。ひと月に1～3名ほどの来訪となっております。田園調布学園大学から複数名、神奈川社会福祉専門学校、東京学芸大学などから参加されています。共生会の施設実習から興味を持って来られる方もいらっしゃいました。繋がり大切に、日々の業務も周りから見られていることを意識することが大切です。

いまさらの♪



横浜らいず
小西 直之

自己紹介
①勤続年数
②座右の銘



小西主任の気まぐれコ・ラ・ム ～映画「不安の正体」を見て～



映画「不安の正体」とは精神障害のある人たちのグループホーム設置に伴い地域住民によるグループホーム開設反対の運動も生じています。事業者が説明会を開催しても反対の声は収まらず、対立が深まるばかりです。そして、精神障害者のグループホームとは、実際にはどのようなものなのでしょう？ 反対住民の声と関係者の意見、グループホームに入居している方々の生活やインタビューを通して、その実像を見つめます。

障がいに対して日常的に関わることをない状況だと、入ってくる情報として、電車内で大きな声をだしているなど、ネガティブな行動が眼についてしまい、それが“障がい者”というくくりで縛られてしまっていると思われまふ。

この映画では、地域住民から施設設営を反対されてしまい、理解の無い住民の声に「さみしい」「みんな本当は優しいのに」という当事者からの声があがった。せめてまずは自分の持っている情報が正しいのか、自分の眼で体験してから決められる世の中であれば、本当の理解へと繋がるのではないかと私は感じました。

①12年
②平等にではなく、公平に。

